

劉 中国共産党南京市委員会常務委員 市長表敬での主なやり取り

H24. 2. 20 9:35~9:55

(河村市長あいさつ)

・死んだ父の関係で、南京とは深い縁がある。自分の父は、ちょうど南京で終戦を迎えた。そして、南京市にある棲霞寺にしばらく滞在した。棲霞寺で南京の人々に大変温かいもてなしを受けて、無事帰国した。

・私の父はよく「おまえが活着ているのは南京の人々のおかげだ」と言っていた。父はお礼に棲霞寺の裏に桜を 1000 本植えた。

・私は、南京で通常の戦闘行為は残念ながらあったものの、南京事件はなかったと考えている。

・(南京事件は 1937 年にあったと言われているが、) もし 8 年前に南京事件があったとしたら、南京の人がなぜ日本の軍隊に優しくしてくれたか理解できない。

・私は、南京事件についてよく勉強した。真の日中友好のためには、南京事件はトゲが刺さったようなものでうまくいかない。

・一度、南京で討論会を開いてほしい。

・今日ちょうど外で抗議活動が行われているので言うが、名古屋城は名古屋のシンボルだ。中国総領事館の移転はできれば遠慮してほしい。

(劉常務委員のあいさつ)

・日中国交正常化 40 周年という記念すべき年に、名古屋を訪問できて光栄である。

・中国には四十にして惑わず、という言葉がある。両国の関係もこのようになると思っている。

・南京市民は平和を愛している。憎しみのためではなく、平和のために歴史を学んでいることを強調したい。

・これまでの 34 年を大切にして、交流を拡大したい。そうすれば両市民の生活が豊かになる。